

国際協力の現場を語る

JICA(独立行政法人 国際協力機構)は開発途上国の発展を支援するため、実務の経験と知識を持った人達を「JICA海外協力隊」として派遣しています。この人達は海外旅行などでの体験とは違った、海外協力隊ならではの様々な体験をしています。赴任国で体験した、生活、文化、人々との触れ合い、苦勞、喜び、伝えたいメッセージなどを熱く語っていただきます。

日 時:毎月第3水曜日 15時00分~16時45分

会 場:JICA横浜 及びWeb会議(Zoom)併用

(第201回は都合によりJICA東京で開催します)

会 費:無料 (どなたでも自由に参加できます)

主 催:NPO法人 シニアボランティア経験を活かす会

後 援:JICA横浜

(やむを得ず日時・会場が変更される場合があります。事前にシニアボランティア経験を活かす会ホームページ、または下記問い合わせ先に確認して下さい。)

問合せ先:横浜市中区新港2-3-1 JICA横浜3階 国際協力連絡室内

シニアボランティア経験を活かす会 水曜日

Fax : 045-663-3263 担当:井坂敏之 (046-887-0286)

URL [https:// jicasvob.com](https://jicasvob.com) E-mail info@jicasvob.com



赴任国(講演者)	「タイトル」	講演概要
第201回 10月19日 (水) ペルー (金田 青)		「普通の会社員が野球隊員になったら」 海外経験も殆どなく、「青年海外協力隊」を知らなかったサラリーマンが、野球隊員を目指した理由、活動内容、そして現在を紹介します。首都のリマを拠点とし(1)ナショナルチーム (2)市役所チーム (3)小学校の主に3つのチームで、野球指導だけではなく、国際試合観戦ツアーの企画 や 大学生短期ボランティアの旅程計画及びその旅程1ヶ月間のコーディネートなど多岐にわたって活動した体験をお話しします。
第202回 11月16日 (水) アメリカ合衆国 (福田 訓久)		「文化と文化の接触で何が起きた？」 ある旅人が「アメリカの最貧地域」とも言われる先住民の村で生活することに。その旅人がナヴァホ族と出会ってからの変容を中心にお話しします。私がナヴァホの地で自分を発見できた2つの大きな理由とは？そして誇り高き先住民たちの現在とは？
第203回 12月21日 (水) ヨルダン (濱口 悠介)		「幸せと平和について」 ヨルダンでの生活、活動、帰国後の暮らしを通してかんがえたこと 仕事はなんのためにするのか 障害とはなにか 誰の目線 誰の都合 定型発達症候群 社会復帰 復帰するほどの 価値ある社会ですか？ 国際協力、先進と発展途上は誰の物差しか 持続可能な開発 開発とはそもそも何か 私達は何を消費しているか 誰を消費しているか 私達が出すゴミや排水ははどこに向かうか 幸せな暮らしとは 平和な暮らしとは。
第204回 1月18日 (水) モロッコ (白石アレマン アンヘル)		「モロッコのグローバル・ICT技術教育活動」 定年後、日本の「情報社会」関連ICT技術、経験を生かし、途上国の教育レベルの向上に貢献したいという以前からの考えで、セカンドライフとして技術協力の道を選んだ。 JICA-SV として、モロッコのマラケシュのカディ・アヤド大学の応用科学大学院大学に電気通信の職種で派遣された。主な活動として、モロッコ政府の要請に基づいて、産業活性化に貢献できる人材育成をめざして、教育・科学技術の普及活動を通して、ICT 技術教育向上に貢献した。
第205回 2月15日 (水) パラグアイ (金田 美穂)		「パラグアイ田舎隊員の看護覚え書」 パラグアイの農村地域にある保健所兼クリニックのような施設で看護師隊員として活動しました。多くの看護師隊員が医療行為を派遣国では出来ないという条件で派遣されます。では、一体どのように看護活動を展開するのでしょうか。私が派遣初期に抱えた課題や悩みから、同僚たちと親睦を深めながら共に活動していく中で見つけた新たな看護観までざっくばらんにお話しします。ホームステイでの珍事件や恋愛事情についても語ります！